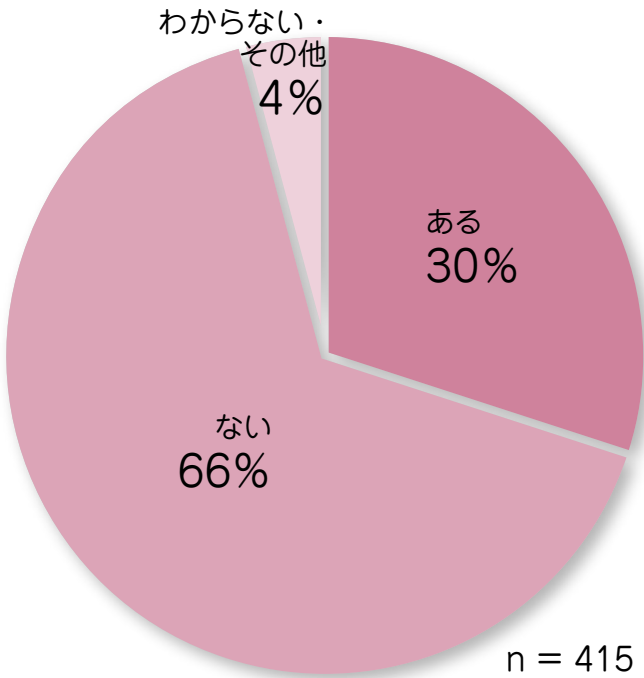


糖尿病患者さんに聞きました

Q. 主治医や医療スタッフから、タバコの害に関する指導を受けたことはありますか？



「ある」との回答は3割。既に左ページで触れたように、スタッフは「指導した」と思っているが、患者さんはそうとは思っていない現実があるようです。では、現在の喫煙状況はどのようなのだろう？というのが次の質問です。

Q. あなたは、タバコを吸われますか？

今まで、ほぼ全く吸ったことがない 39%
 以前は吸っていたが、糖尿病のことを考え禁煙した 9%
 以前は吸っていたが、糖尿病とは無関係に禁煙した 38%

現在、吸っている 13% その他 1%
 糖尿病患者さんの喫煙率は13%という結果でした。これは日本全体の喫煙率(国民健康・栄養調査で約18%)より低く、12年前の本コーナーの調査(30%)からも著減しています。「糖尿病のことを考え禁煙した」人も約1割を占めることから、現在の糖尿病患者さんの喫煙率の低さは、療養指導の成果と言えるのではないのでしょうか。

Q. 禁煙したいと思えますか？

すぐに禁煙したい 23%
 いずれは禁煙したい 43%
 禁煙する気はない 21%
 わからない 13%

Q. 今までに禁煙に挑戦したことはありますか？

n=53
 1回ある 26%
 2回以上ある 34%
 ない 40%

現喫煙者であっても禁煙をしたいと思っている患者さんが多く(3分の2)、実際に禁煙を試みた人も過半を占めます。こうした方々への禁煙指導を今一步強力で推し進めることで、糖尿病患者さんの喫煙率を一層低下させることが期待できそうです。

n = 415

Q. 禁煙したことで、なにか変化がありましたか？(複数回答可)

n=194
 多く選択されたものから順に、「体調がよくなった」43%、「食欲が増えた」38%、「体重が増えた」33%、「特に変化なし」26%などが挙げられました。

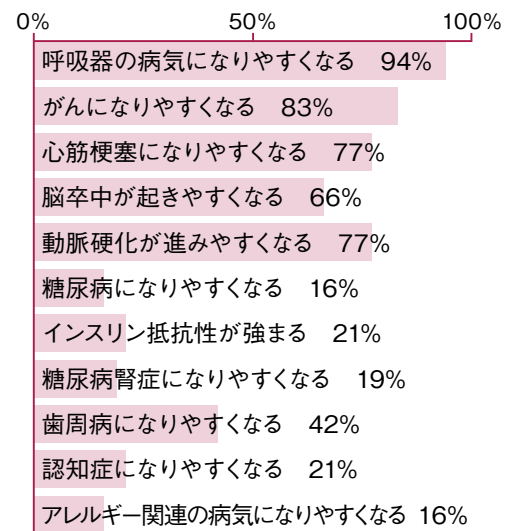
なお、医療スタッフに、禁煙した患者さんの変化を質問したところ、「体重が増える患者さんが多い」64%、「糖尿病の治療意欲が向上する患者さんが多い」41%が上位2つでした。後者については患者さんのアンケートで「禁煙して治療意欲が向上した」は8%にとどまっていたので、医療スタッフの印象とだいぶ開きがあります。“患者さんが何かの気づきをきっかけに糖尿病の治療意欲が向上していき、その過程において禁煙にも成功する”と解釈するのが自然なようです。

Q. 現在、受動喫煙防止法案が議論されていますが、どのような内容の法律がよいと思えますか？

n=416
 なるべく厳格なほうがよい 67%
 なるべくゆるいほうがよい 9%
 どちらも言えない 16%
 わからない・その他 8%
 厳格な法律を期待する意見が7割弱に至

りました。少し意外なことに、現喫煙者に絞ってみても「厳格なほうがよい」30%、「ゆるいほうがよい」34%と両者が拮抗。“たとえ自分は吸っても他人に害を及ぼすのはダメ”ということが、常識化してきたようです。

Q. 以下のうち、喫煙と関係があると思うものを、全て選択してください。



上記は全て喫煙との関連がエビデンスで裏付けられた事項です。呼吸器疾患やがんと喫煙の関係については患者さんの認知も高いと言えますが、大・小血管イベントとタバコの関係は、まだ十分認知されていないことがわかります。

自由記述から

糖尿病とタバコは無関係では？(50代、男性、2型、非喫煙者。この方他にも「両者は関係ない」など同様の記述が多数)／この問題では嫌煙者がヒステリックになりがちで、自分の考えを押し付け気味で困る(40代、男性、2型、前喫煙者)／「糖尿病だから甘いものは食べない方がよい」等と同様に「あなたは糖尿病持ちだから、いろんなことをしてはいけない！」と言われてるように聞こえてしまう。個人的には気分転換などに十分効果を発揮している(40代、女性、1型、現喫煙者)／自身を律して血糖値を1日何回も測定し、インスリンや食事管理もして戦いをしているのに受動喫煙などしたくない(50代、女性、1型、非喫煙者)／自分の回りの元ヘビースモーカーは「やめて良かった」と言っている人ばかり(50代、女性、1型、前喫煙者)／店舗の入り口に喫煙所が設置されている所が多くなって、受動喫煙の機会が増えた。昔はモラルの高い喫煙者は、あんな場所で喫煙はしなかった(50代、男性、その他の糖尿病、前喫煙者)。